

松本蟻ヶ崎高校

高校

筆文字で思い届ける大切さを竜にのせる!!



第12回書道パフォーマンス甲子園に於いて、令和元年8月4日(日)、伊予三島運動公園体育館で開催された松本蟻ヶ崎高校(長野県松本市)が初優勝を飾った。大会は「お祝いします!」から始まる6分間の中で、踊りや演技を披露しながら、縦4m×横6mの巨大な用紙に作品を仕上げ、書的美しさを紙面構成、所作の美や独創性などを競う。松本蟻ヶ崎高校は、5年連続6回目の出場で初の栄冠を手にし、部員48人や保護者、またOGらが涙を流して喜び合った。作品は、背景に豪華な筆書きの「書道」を描き、用紙の真ん中に初志貫徹をモチーフとした「書道」を大書し、3年生12人で演じた。スマートフォンで画面を壊す演出を取り入れ、「SNSが普及する今、自分の思いを言葉にして、「紙」

長野県松本蟻ヶ崎高等学校(3年)書道部長 松岡 実優さん

優勝だけを目標に努力してきた先輩方が、審査員特別賞を受賞した1年前、悔しさと共に「来年こそ優勝する」という気持ちで舞台上に立ち上がった。それから、自分が舞台上に立ち上がった。自分か何度も話し合いをしたり、構成を考える上で時にぶつかり合うこともあり、しかし、それが置かれた

私に本校に赴任した時、書道部員は2年生男子1人だけでした。2人目に入部した1年生が3年になった時の文化祭で、初めて書道パフォーマンスをしたのが蟻ヶ崎書道部のパフォーマンスの始まりです。現在、年に60ヶ所以上依頼を受けてパフォーマンスを実施していますが、一つ一つ全く異なる構成でやっています。この中で部として大切にしていることは、一、見てくださる地域の方々に笑顔と元気を届ける

今大会は、全国から106校の参加があり、地区予選を勝ち抜いた20校が本戦に出場し、3連覇を懸けて臨んだ八幡中央高校(福岡県北九州市)が準優勝だった。

事、「パフォーマンスを考えるにあたり書を中心としたパフォーマンスであって、常に書の伝統的なものを意識して高校生らしい作品を作る事、一、部活がパフォーマンスに偏らずに古典臨書や作品制作に積極的な力を注ぐ事」の3点です。今回憧れの聖地四国中央市の優勝は思った以上に反響も大きくなり、地元の方々に多くのお祝いの言葉をいただきました。最後になりましたが、このような素晴らしい大会を実施し、支えてくださり、御尽力いただいたことに感謝し、御礼申し上げます。

立場を理解し、その中で優勝という一つの目標に向かって全力で取り組むことができたから、また先生方、保護者の方々、先輩方、地域の方々の目線の支えがあったからこそ、今があると思います。正直、本書の自分の字には未だに悔が残りますが、私達の思いが伝わったというところが何よりも嬉しかったです。テーマ、文章、演出など自分達が納得するまで時間をかけて考えることができたかと思えます。大好きな仲間と夢を叶えて喜び合った瞬間を私は一生忘れません。ありがとうございました。

等身大の問題意識がテーマとなって自分達の言葉で訴えられた。中央の篆書四字の本格的出来ばえ。隷書も安定感に満ちている。

デジタルと伝統とのせめぎ合いをテーマに一筆一筆に魂を込めて創り上げる演技に魅了された。パフォーマンス経験の多さに裏打ちされた見事な演技だった。

篆書体表現、始筆は順筆で書いているが逆筆で書くことが望ましい。力強くまとまった作品です。

強いメッセージが伝わってくる迫力のあるパフォーマンスだ。キビキビとした所作が「スマホより手書きが大切」という熱い思いと呼応して見る側に訴えかけてくる。

紙面でのやりや筆の軌跡、グラデーションなど美しく、デジタルでない手書きの世界って素晴らしいな、ひしひしと伝わってきました。

感動しました!見事な書道パフォーマンスでした!

現代的なテーマを、自分達の決意表明へと感動的に表現していたと思う。伝えたいことも明確で、演技も迫力があってとても素晴らしい。

ストーリーも楽しかった。文字がとにかく上手い。全員のレベルが高い。お見事でした。仕上がった作品は素晴らしいです。

書道パフォーマンス甲子園に関するお問い合わせは

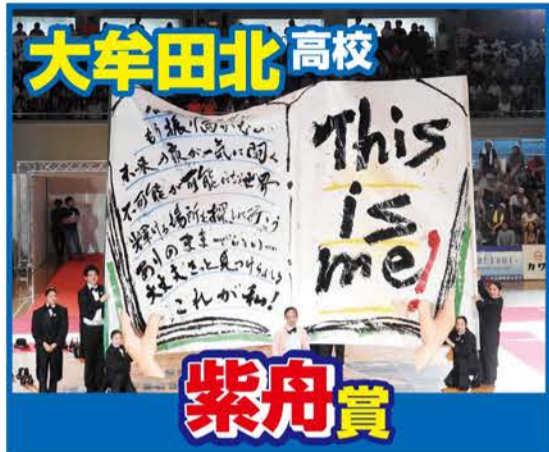
【発行】書道パフォーマンス甲子園実行委員会
四国中央市教育委員会 文化・スポーツ振興課
書道パフォーマンス甲子園振興室内

【住所】愛媛県四国中央市三島宮川4-6-55
【電話】0896-28-6037
【FAX】0896-28-6060
【メール】info@shodo-performance.jp
【HP】http://shodo-performance.jp/

【不定期発行新聞】熱演書道P甲子園



過去最高 延 6,500人が観戦!!



熱気あふれる会場!!



八幡中央高校 準優勝

高校生による 高校生の大会

本大会では、市内の3つの高校などから約100人のボランティアが参加し、主体的に運営を担っている。開会式では、前日に引き続き高校生が歓迎の挨拶を行ったほか、今年からは司会も務めるなど活躍の場は年々広がる。歓迎の挨拶を行った保田音前(3年)さんは、「喜怒哀楽を共にした仲間たちを迎えることができる最初で最後の日、一人一人の思いを大切にかけがえない一日にしてほしい」と選手に呼びかけた。「選手誘導班として須磨東高校のプラカードを持った。プラカードは上手に持てたと思うが、笑顔を作ることが難しかった。選手たちの頑張っている姿を見て、自分も部活や勉強に頑張りたい」と話すさんは、はじめて参加した石川智花(1年)さんは、中学校時代から参加している長原風沙(3年)さんは、「演技審判班は間近で見られるのが、ジャッジを行うのが常に緊張する。しかし、とてもやりがいがあり、大学生になっても続けたい」と目を輝かせた。書道パフォーマンス甲子園は、選手たちにとっても、高校生ボランティアにとっても特別な一日となっている。高校主体の大会であり、これからの活動があるのを楽しみだ。



盛り上がる交流会

大会に出場する選手や教諭など約450人が参加して、8月3日(土)の18時からホテルグランフオーとして交流が行われた。会場では、選手同士が親しくなれるように、同じ学校の選手が離れて配席される。会話が弾むのが不安を覚えるが、そこはさすがの高校生たち、すぐにスマホを使った撮影会をはじめ賑やかなスタートとなった。事務局職員は2人だけで、受付をはじめ司会やゲームの企画などは、昨年の12月から高校生ボランティアが全て準備している。終盤に行われた出場校意気込みは、それぞれが趣向を凝らして大会への決意表明を熱く叫んだ。会場内のボルテージは最高潮を迎え、参加した選手からは「最高に楽しかった!」との声があり、大盛況で終了。この交流会を通じて、間違いない新たな絆が生まれたはずだ。

紙上で繰り広げられた最高の芸術、熱き青春。今回初めて書道パフォーマンス甲子園を観させていた。6分間という限られた時間の中で、真っ白い紙を是非ともこの目で見てみたい!という強い想いでいた。私が勤務している横濱市立上永谷中学校は、神奈川県、横濱市の港南区にある。本校でも昨年度の文化祭で生徒会本部役員を中心に、書道パフォーマンスを取り組み始めました。そして、今年度は、港南区50周年記念式典の開会式という大変重要な舞台で行う機会を得ることができました。書道パフォーマンス

感動の声
横濱市立上永谷中学校 井手上 大樹 教諭

書道パフォーマンス甲子園を初観戦、感動の声をいただいた。百聞は一見にしかず、ぜひとも会場で観戦を!!

それぞれの初出場

山口高校 由美 教諭
山口 有富

「私を夢の舞台に連れてきてくれてありがとう」と、迷い無くこの言葉を綴ります。予選審査結果発表の日、これまで何度か流してきた悔し涙。でも今年、それは今までは違いました。忘れてもならない6月18日、本戦出場決定の知らせでした。文字通り夢を見ていたように、驚きと喜びで震えが止まりません。言葉を送ります。

大曲北高校(3年) 板橋 侑香 さん

九州ブロック一位通過で、初めての全国大会の切符を手にした時、みんな泣き崩れました。初出場でも得たものは、言葉に表すことができないほど多く、沢山の出会いや経験の中で人の熱さ、「有り難さ」を感じました。

今までに、辛いことやきついなことが生忘れられない思い出となりました。何度もありました。しかし、今では部員と涙を流し笑い合った時間は宝物です。ずっと夢を見てきた舞台であり、今回紫舟賞をいただいたことをパフォーマンスは、今までに経験したことがないほど楽しくキラキラした時間でした。

